

平成28年度 鎌ヶ谷市郷土資料館 企画展

昔なつかしい 鎌ヶ谷の民具①

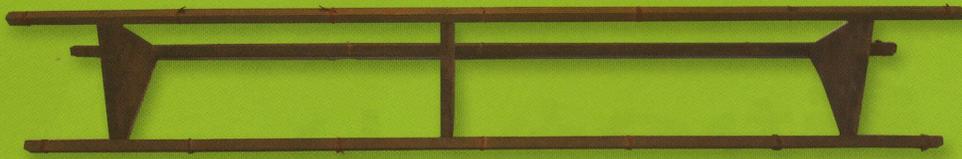
-生業の道具-

前期 2/ 4(土) ▶ 3/19(日)

後期 3/25(土) ▶ 5/21(日)

■会期中の休館日：月曜日と2/11、4/29、5/3～5/5は休み

〈開館時間〉午前9時～午後5時



■会場：鎌ヶ谷市郷土資料館 2階展示室 入館料無料 鎌ヶ谷市中央 1-8-31

ギャラリートーク (学芸員による展示解説)

前期 2/8(水)、19(日)、28(火)、3/4(土)、16(木)

後期 4/2(日)、15(土)、25(火)、5/10(水)、18(木)
の午後1時30分～2時30分

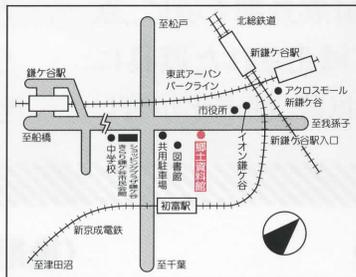
郷土資料館 × 図書館 コラボレーション企画

図書館での連携展示「昔懐かしい風景～生活と道具～」を
2/1(水)～3/20(月)の期間開催します。

※詳細は図書館まで。

■主催：鎌ヶ谷市郷土資料館

Tel. 047(445)1030 E-mail:kyodo@city.kamagaya.chiba.jp



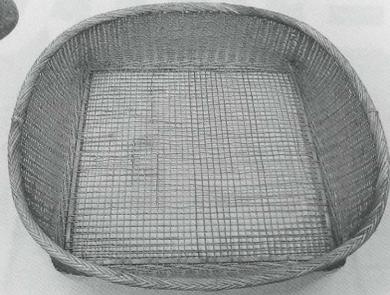
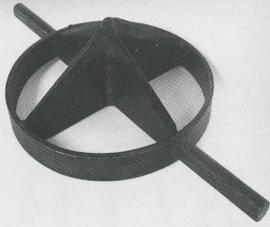
交通案内

- 新京成線「初富駅」より徒歩5分
- 東武アーバンパークライン・新京成線・北総鉄道・成田スカイアクセス線「新鎌ヶ谷駅」より徒歩18分
- 東武アーバンパークライン「鎌ヶ谷駅」より徒歩15分



昔なつかしい 鎌ヶ谷の民具①

-生業の道具-



郷土資料館では、様々な歴史・民俗資料を収集しています。その中で、有形の民俗文化財である民具を数千点寄贈いただきました。それらの民具は、現在、分散保管していて、常設展示のスペースに限りがあることから、多くをお見せすることができない状況です。そこで、企画展の場を使い、テーマを設け、少しずつ展示していくこととしました。

民具は、民衆の日常生活におけるいろいろな要求に基づいて作られ、長い間使用されてきた道具や器物を総称した言い方です。民俗学者の渋沢敬三(しぶさわけいぞう)によって提唱された学術用語です。その意味では、民家や民話と同じような発想の語といえます。民俗学は、以前は無形の資料を中心として、聞き書きによって調査が行われてきましたが、近年は、有形資料の有効性も認められ、「民具学」が提唱され、認知されるようになってきました。

他方、民具は、主として農業・漁業・林業などの第一次産業の場で使われてきたものでしたから、日本の産業構造が変化した高度経済成長期を境に、急速に使用されなくなったり、機械化された道具にとって変わられました。この時期以降、都市化が著し

く進行した鎌ヶ谷市域も例外ではありませんでした。特に、急速に水田が減少していったため、稲作に関わる農具が姿を消し、あるいは農家の納屋(なや)などにしまわれたままとなりました。高度経済成長からほぼ半世紀が経過し、振り返ってみると、民具は貴重な民俗資料でもあり、歴史資料でもあるといえます。

今回の展示では、かつて市域で使われた後、郷土資料館へ寄贈いただいた民具の中から、生業に関わるものを選び、ご覧になっていただきたいと思えます。特に、人力で動かし、木・竹・藁など素材として作られたもの、あるいは一部に鉄の部品がつけられたものに限定しました。かつてこれらを使用された方には、往時を思い出していただき、若い世代の人たちには、昔の人の様々な工夫をありさまを垣間見ただけであれば幸いです。

内容

〈前期:2月4日~3月19日〉

- 稲作 ●様々な鋤 ●農家の仕事着(共通)
- 運搬の道具(共通) ●大工の道具 ●屋根屋の道具

〈後期:3月25日~5月21日〉

- 畑作 ●山と川で使用された民具 ●農家の仕事着(共通)
- 運搬の道具(共通) ●桶屋の道具 ●鍛冶屋の道具と製作品